

YOKOHAMA CITY UNIVERSITY

横浜から世界へ

— 21世紀をきりひらく伝統と革新 —



横浜市立大学創立75周年記念事業後援会募金事務室
〒236-0027 横浜市金沢区瀬戸22-2
横浜市立大学総務課内



75

横浜市立大学
創立75周年記念事業

横浜から世界へ 伝統と革新

新制大学としての横浜市立大学は、横浜市立商業専門学校（一時、横浜市立経済専門学校）並びに横浜医科大学（横浜市立医学専門学校が昇格）を前身として、昭和24年（1949年）に発足しました。昭和3年（1928年）創設の横浜市立商業専門学校から数えて、70年の歴史と伝統を有しています。

この伝統の上にたって、教職員、学生及び横浜市は研究教育や学生生活の環境整備に励み、いま横浜市立大学は4学部（商学部、医学部、国際文化学部、理学部）、5大学院研究科（経済学、経営学、医学、国際文化、総合理学〔いずれも修士・博士課程〕）、2研究所（経済研究所、木原生物学研究所）、2附属病院並びに平成7年併設の横浜市立大学看護短期大学部からなり、学生数4,200名、専任教員数600名を擁し、名実共に内外に誇る名門校になりました。

「国際港都横浜市における学術の中心として研究教育並びに能力に富む人材の育成に努め、世界の平和と人類の福祉に貢献し、市民生活並びに文化の向上に寄与する。」（学則）という建学の精神を踏まえながら、技術革新、社会変革、急激な国際化、グローバル化する時代の諸問題やニーズに応えて、専門やキャンパスの枠を越えた新たな学際的、連携的研究教育の理念やシステムをつくり、研究教育の成果と発信型の国際的人材を「横浜から世界に」送り出す努力をしています。

これは、まさに本学の母体となった旧専門学校を含め社会の各分野で活躍する約30,000人の卒業生の伝統の上にきり拓かれた革新にほかなりません。

記念事業の概要と募金のお願い

横浜市立大学は、新しい大学像を求め、教育研究環境の整備のため、平成元年に創立60周年記念事業を実施し、皆様の募金により「横浜市立大学六十年史」を刊行し、若手研究者や学生の学術研究の支援を目的とした横浜学術教育振興財団を平成9年4月に設立することができました。しかし、目標に掲げられたセミナーハウスの建設は実現に至りませんでした。また、横浜学術教育振興財団（基金3億円）も現在の経済環境でその運営に苦慮する状況にあります。

創立記念事業は、これまでのように10年ごとではなく4半世紀を単位に、集中的に行いたいとの意見が強かったため、次の目標を平成15年（2003年）の創立75周年に定め、それに向けて全勢力を結集することとなりました。

事業概要

創立75周年記念事業の中心として、「横浜市立大学創立75周年記念基金」（目標額5億円）を創設し、次の事業に使用し、本学の学術・教育研究の内容と環境整備の一層の充実を図ります。

- ①本学学生の課外活動及び同窓生の交流の場としてのセミナーハウスの建設
 - ②その他、本学の教育研究の発展に寄与する事業
- 今日、多くの卒業生が社会の各界各方面において活躍しており、その力は計り知れないものがあります。横浜市立大学のさらなる発展のため、75周年記念事業の趣意をご理解ご賛同のうえ、ご厚志を賜りたく、ここにお願い申し上げます。

母校のさらなる発展を！

私の母校であります横浜市立大学は、平成15年に創立75周年を迎えることとなります。創立75周年を迎えるにあたり、大学の学術、教育研究のさらなる振興や新旧同窓生の親交を深めることを目的に、平成9年3月に、卒業生有志が中心となって横浜市立大学創立75周年記念事業後援会を発足させました。

本後援会の主な活動は、記念事業の中心となる「横浜市立大学創立75周年記念基金」（目標額5億円）創設のための募金収集にあります。日頃から本学を支えていただいている産業界、校友の方々のご協力なしには実現させることはできません。なにとぞ私たちの趣意をお汲みとりくださり、21世紀へ羽ばたこうとする横浜市立大学へ、皆様の格段のご協力を賜りますよう、心からお願い申し上げます。

1998年9月

横浜市立大学創立75周年
記念事業後援会

会長 馬場 彰

（株式会社オンワード樺山 会長）



新世紀の大学像をもとめて

今、大学は激動の時代にあります。少子・高齢社会を迎え、社会経済のグローバル化、科学技術の急速な進展の中で、21世紀の新たな世界の創造に向けて、大学の役割は大きく変化しています。

日本の大学には国立・公立・私立の3つがあり、これまで公立大学は大学数・学生数など規模の面で少数派でした。これからは大学における学習機会が流動化し、入学した大学だけで教育が完結することはなくなるでしょう。また、入学段階の偏差値より、在学中の能力開発が決め手になるでしょう。

新世紀に向けて、都市と大学とが一層強固に結びつく時代に入ると考えられます。本学は、創造性と社会性に優れた人材を育成し、人類社会に貢献するため、質の高い教育研究をさらに推進するとともに、都市に開かれた公立大学として地域貢献にも積極的に取り組んでいきます。

世界をみすえ、持ち場で動け

横浜は幕末開国の地であり、日本最大の開港場で、近世の城下町を持たず、港を核として発展しました。国内外から進取の気性に富む人達が集まり、因習にとらわれず、開放的な気質を発揮して、新しい文化を創造してきました。わが大学は、このまちの伝統を敬愛し、さらに未来へ向けて世界の文化創造の拠点となる気概をもっています。

学生諸君には、既存の知識を受け入れる「受信型」学習と同時に、自分の内面から湧き出る知的欲求に基づく勉学（「発信型」学習）を期待し、着想・調べ・表現の3つの能力の開発教育を行っています。

これからの時代を担う学生が、気宇広大な思想と着実な行動力を身につけた人間になるよう、激励しています。

1998年9月

横浜市立大学 14代学長 加藤 祐三



学部短信 NEW TOPICS OF FACULTIES



◆社会人入学及び企業との交流（商学部）

社会人入学が定着し、毎年、一般学生と共に勉学に励んでいます。特に、大学院では、現役の企業人など幅広い社会人が研究生生活を送っています。また、平成10年度から企業のトップの方を講師に迎え、理論と実践の両面からの教育を特徴とする「トップマネジメント講座」を開催しています。



◆高度医療社会への貢献（医学部）

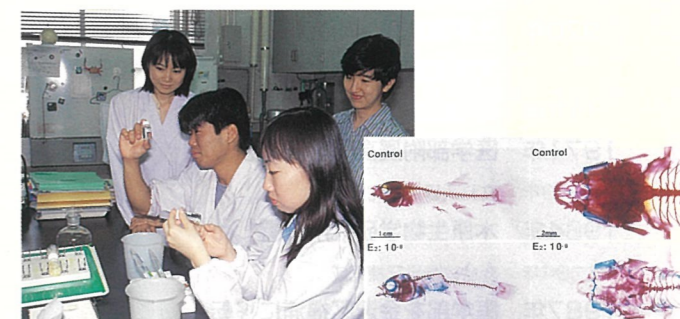
医師以外の福祉・医療に携わる高度な医学的知識を有する専門的職業人及び研究者を養成するため、平成10年4月に大学院医学研究科に医科学専攻修士課程を開設しました。

また、再整備を進めている附属浦舟病院は、平成11年度中に完成の予定です。浦舟病院の再整備が完了すると、福浦の附属病院と併せて、1,343床と公立大学の中でも最大規模を備えた体制となります。



◆積極的に進める国際交流（国際文化学部）

国際的な視野と人文・社会科学の広い教養を持つ社会人の育成を目指しています。そのため、アメリカ・カナダ大学連合日本研究センター（ハーバード大など17大学）学生との交流や大学院国際文化研究科による横浜市内の国際機関にボランティアとして学生を派遣するインターンシップを実施しています。



◆環境ホルモン共同研究プロジェクトの発足（理学部を中心に）

理学部では、昨今新たな環境問題として社会問題化している環境ホルモンについて、1960年代から先進的な研究を進め、多くの成果をあげてきました。また、最近、理学部を中心に、医学部、看護短期大学の教員による日本初の学際的な「環境ホルモン共同研究プロジェクト」を発足させるなど、今や日本の環境ホルモン研究をリードしています。



◆開かれた大学へ～21世紀フォーラム～

本学では、国際社会・全人類に対し積極的に貢献することを目的に、21世紀に向けた世界的な課題をテーマとして掲げ、国内外の著名な学者や識者を招いて、市民の方々とともに研究討論し、世界に向けて情報を発信する国際学術会議「よこはま21世紀フォーラム」を、昭和59年度から毎年開催しています。

<最近のテーマ及び主催学部等>

- 第13回（平成8年度）海洋の新しい時代（国際文化学部）
- 第14回（平成9年度）ゲノム生物学が拓く生命科学の新局面（木原生物学研究所）
- 第15回（平成10年度）高齢者の働く場づくり・生きがいづくり
～アクティブ・エイジング社会への展望～（予定：経済研究所）

◆生命科学の最先端研究機関との連携大学院の構築（総合理学研究所）

生命科学の分野において世界的にも最先端の研究機関となる特殊法人理化学研究所の「ゲノム科学総合研究センター」の立地が鶴見地区に決定されたことにより、理化学研究所との連携大学院の構築を進め、教育研究の高度化並びに産業への貢献に取り組んでいきます。



◆保健・医療・福祉の中核的役割（看護短期大学部）

病院や地域医療における保健・医療・福祉などの幅広い分野で中核的な役割を担う人材養成を目指し、平成7年4月に開学し、平成10年3月に第一期生を送りだしました。

前史

- 1854年 開国（横浜村で日米和親条約調印）
- 1859年 横浜開港
- 1874年 十全医院
- 1882年 横浜商法学校
- 1888年 横浜商業学校
- 1891年 横浜市十全医院
- 1899年 条約改正、居留地撤廃
- 1917年 横浜市立横浜商業学校〔Y校〕
- 1923年 関東大震災



横浜市十全医院

昭和

- 1928年 横浜市立横浜商業専門学校〔Y専〕
(横浜市立横浜商業学校専修科を母体として設立)
- 1941年 太平洋戦争勃発
- 1944年 横浜市立経済専門学校(改称)、横浜市立医学専門学校、横浜市立医学専門学校附属十全病院
- 1945年 横浜大空襲、終戦
- 1947年 横浜市立大学(商学部・経済研究所)
- 1949年 横浜市立大学(商学部・経済研究所)
- 1952年 文理学部・医学部設置
- 1954年 横浜市立大学医学部病院開院
- 1959年 隣接の東洋化工工場爆発事故、旧木造校舎3号棟一部損壊
- 1961年 大学院医学研究科(博士課程)設置
- 1963年 本館校舎完成
- 横浜駅西口ダイヤモンド地下街完成
- 1970年 大学院経済学研究科(修士課程)設置
大学院経営学研究科(修士課程)設置
- 1970年 理科館完成
- 1971年 医学部附属高等看護学校設置
- 1978年 文科系研究棟完成
- 1984年 木原生物学研究所設置
- 1984年 総合教育研究棟完成
- 1987年 医学部を金沢区福浦に移転

横浜医科大学

横浜医科大学病院

横浜市立大学病院を併称



瀬戸キャンパス木造校舎(昭和35年頃)



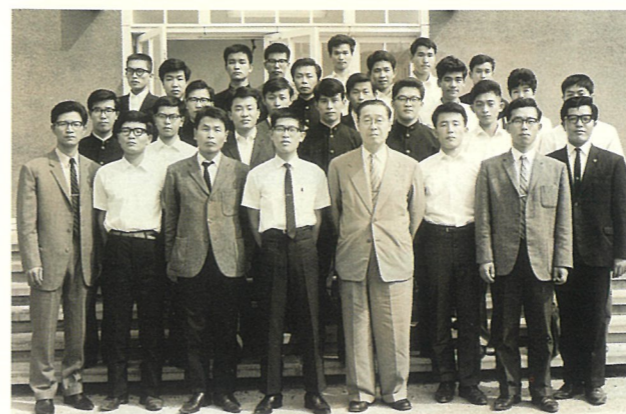
総合教育研究棟



上大岡オフィスタワービル

平成

- 1989年 大学院総合理科学研究科(修士課程)設置
- 1991年 大学院経営学研究科(博士後期課程)設置
大学院総合理科学研究科(博士後期課程)設置
横浜市立大学医学部附属病院が金沢区福浦に開院
横浜市立大学医学部病院を横浜市立大学医学部附属浦舟病院と改称
- 1993年 大学院国際文化研究科(修士課程)設置
- 1993年 横浜ランドマークタワー完成
- 1994年 横浜駅東口横浜ポートサイド地区に横浜市立大学アーバンカレッジ開設
(1998年上大岡オフィスタワービルに移転)
- 1995年 文理学部を改組し、国際文化学部と理学部を設置
横浜市立大学看護短期大学部設置
- 1996年 大学院国際文化研究科(博士後期課程)設置
医学部附属高等看護学校廃止
- 1997年 大学院経済学研究科(博士後期課程)設置
- 1997年 福利厚生施設シーガルセンター完成
- 1998年 大学院医学研究科(医科学専攻修士課程)設置



私は田嶋四郎先生の最後のゼミ生です。先生は「とにかく、勉強しろ。誰にも負けないものを持って。」と常に真の実力を重視されました。この教えが今も私の支えです。

昭和43年商学部経営学科卒業
正垣 修(ソニーマーケティング)
(昭和40年頃の会研のメンバーと田島先生の写真)



神奈川六大学リーグ(昭和29年)決勝戦で、優勝した市大が敗れた神大にエールを送っている写真。(於 横浜平和球場)
この写真の中に、菊池豊三郎学長がおられます。
変なコスチュームの人が居るのは、学園祭仮装行列に参加した人達が流れ込んで入ってきたものです。

昭和31年文理学部文科卒業
鈴木 幹雄(タイヘイ)



全学のチアリーダー部に入部したことで、他学部との交流ができ、多くの仲間や思い出ができ、大変よかったです。

平成10年看護短期大学部卒業(チアリーダー部)
竹之内 聡子(横浜市立大学医学部附属病院第3内科)

今年は、私達医科予科生がキャンパスにイチヨウの木を植えて、丁度50年になります。歳月と共に立派な並木になったことは望外の喜びです。学生、教職員、卒業生すべてが、私達の大学は自分達で育てるという気持ちをもっと持つことが必要だと思います。

横浜医科大学3回生(昭和30年卒業)
三杉 和章(横浜市立大学名誉教授)

数学科で初めて学生祭に参加した催し物は、「世界数学者の肉筆展」でした。相対性原理のアインシュタイン、統計学のピアソン分布のカルルピアソン、プリンストン高等研究所のオープンハイマー等著名な学者の肉筆展でした。今も良い思い出として残っています。

昭和31年文理学部理科数学課程卒業
下川 幸嗣(日本情報産業)

高校時代から憧れていたサッカー部に入りキーパーをしていました。4年の時の関甲信大会で筑波大に逆転負けしたことが思い出深いです。日石に入社の際にプレーイングマネージャーをしていたことが役立ちました。

昭和55年商学部経営学科卒業(サッカー部)
目黒 芳正(日本石油)

ハンドボールに明け暮れた大学4年間、仲間と流した汗は今でも大切な思い出として心の支えになっています。練習設備や環境は発展途上の市大だったが、スポーツにかける情熱は誰にも負けないものがあつたと思います。

昭和63年文理学部文科卒業(ハンドボール部)
村田 悟(近畿日本ツーリスト 横浜団体旅行支店)

市大を卒業して早30年。

学生時代にはホッケー部に所属、今もOBチームを作り現役との親睦試合で、先輩後輩との交流を保っています。

市大では、学校の施設はだんだん良くなっているが、グラウンドは相変わらず悪いまま。75周年には良いグラウンドができ、強い現役になればと念じています。

昭和44年商学部経済学科卒業
(グラウンドホッケー部)
北川 和夫(横浜銀行)

この度、管弦楽団として学長奨励賞をいただきました。大学の4年間は笑いと涙の連続。生活の全てが部活にそまってしまうほどでした。ですから、卒業式でこのような賞をいただくことができ、とても嬉しかったです。

(第1回学長賞において学長奨励賞を受賞した管弦楽団代表)

平成10年文理学部理科学部卒業
宇野 文華(サザビー)

募 金 要 項

1 目標額

5億円

2 募金の種類

法人寄付

1口の金額は特に定めておりません。

個人寄付

1口1万円 なるべく2口以上のご協力をお願いいたします。

3 募金期間

平成10年9月1日から2年間（延長する場合があります。）

4 払込方法

同封の払込用紙に必要事項をご記入のうえ、お払い込みください。

5 寄付金に対する免税措置について

法人の場合

この寄付金につきましては、法人税法第37条第3項第1号に規定する国等に対する寄付金であるとの、東京国税局長の回答を得ておりますので、その金額を損金計理し、かつ、法人税確定申告書に「寄付金の損金算入に関する明細書（別表十四）」を添付することにより、各事業年度の所得金額の計算上、損金の額に算入することができます。

なお、本後援会発行の領収書は寄付金が入金され次第お送りいたします。

個人の場合

この寄付金につきましては、所得税法第78条第2項第1号に規定する国等に対する寄付金であるとの、東京国税局長の回答を得ておりますので、所得税確定申告の際、次の手続きにより所得控除を受けられます。

- ① 寄付金が1万円を超える場合は、その超えた金額がその年の課税所得金額から控除されます。（ただし、年間総所得金額の100分の25が限度）
 - ② 免税の手続きは、寄付をしていただいた翌年の確定申告期間に本後援会発行の領収書を添えて所轄税務署で確定申告を行ってください。
- ※ なお、確定申告の手続きのために本後援会発行の領収書を必要とされる方は、募金事務室までお申し出ください。入金を確認され次第、お送りします。

6 その他

この寄付金についてのお問い合わせは、下記募金事務室までお願いします。

横浜市立大学創立75周年記念事業後援会募金事務室
〒236-0027 横浜市金沢区瀬戸2-2 横浜市立大学総務課内
TEL 045-787-2004 FAX 045-787-2316

後援会組織

● 会 長 ●

馬場 彰 昭和33年 商

● 副 会 長 ●

後藤 光男 昭和33年 商 井出 研 昭和34年 医
鈴木 幹雄 昭和31年 文 下川 幸嗣 昭和31年 理

● 監 事 ●

大村 守一 昭和35年 商 四谷 次郎 昭和33年 文

● 理 事 ●

黒津 貴聖 昭和31年 商	島村 昌孝 昭和31年 商	八塩 三郎 昭和33年 商
田中 毅 昭和33年 商	坂本 忠歳 昭和33年 商	出原 基次 昭和34年 商
秋谷 淨恵 昭和35年 商	西丸 與一 昭和28年 医大	小泉 博義 昭和37年 医
渡邊隆一郎 昭和24年 医専	田中 腆士 昭和34年 文	阿部 貞夫 昭和37年 文
秋田 豊久 昭和33年 文	菊池 伸二 昭和35年 理	粟飯原 賢 昭和35年 理
宮之原 隆 昭和33年 理	穂坂 正彦 横浜市立大学医学部長	長谷川 洋 横浜市立大学国際文化学部長
柴田 悟一 横浜市立大学商学部長	村橋 克彦 横浜市立大学経済研究所長	小山 秀機 横浜市立大学木原生物学研究所長
小島 謙一 横浜市立大学理学部長	川口緋沙子 横浜市立大学看護短期大学部長	藤川 文彦 横浜市立大学事務局総務部長
小川 恵一 横浜市立大学総合理学研究科長		

● 顧 問 ●

野並 豊 進 進交会理事長	高岡 幸彦 横浜市立大学後援会会長	加藤 祐三 横浜市立大学学長
岩間 博和 進交会副理事長	宇南山英夫 横浜市立大学後援会副会長	富田日出男 横浜市立大学事務局長

● 評 議 員 ●

早瀬 公智 昭和32年 商	弘田 義 昭和32年 商	足立 光生 昭和34年 商	市丸 和久 昭和34年 商
青山 完 昭和35年 商	坂田 雄紀 昭和35年 商	星 正雄 昭和35年 商	後藤 勝次 昭和36年 商
船橋 利信 昭和36年 商	田所 栄 昭和38年 商	星加 泰 昭和38年 商	加藤 忠良 昭和40年 商
大島 孝之 昭和40年 商	鈴木 紀厚 昭和41年 商	小林 徳太 昭和42年 商	佐藤 雅之 昭和44年 商
久田 宗弘 昭和44年 商	横井 宏宜 昭和44年 商	海津 光秀 昭和45年 商	小林憲一郎 昭和45年 商
熊代 等 昭和46年 商	小松 優 昭和46年 商	作田 正道 昭和46年 商	春山 芳保 昭和46年 商
岩瀬 一雄 昭和46年 商	渡辺 人光 昭和46年 商	相模 賢一 昭和47年 商	足立誠一郎 昭和51年 商

林 敬治 昭和25年 医専	楠 豊和 昭和29年 医大	三杉 和章 昭和30年 医大	松山 秀介 昭和31年 医
山田 勝久 昭和31年 医	野末 悦子 昭和32年 医	岡本 堯 昭和34年 医	日台 英雄 昭和34年 医
小野 慈 昭和35年 医	内山 光明 昭和37年 医	小田切繁樹 昭和37年 医	有田 禎二 昭和39年 医
成瀬 道彦 昭和40年 医	西山 潔 昭和42年 医	岸本 英爾 昭和43年 医	増田 肇 昭和43年 医
古橋 一正 昭和45年 医	二瓶 東洋 昭和46年 医	北村 創 昭和47年 医	藤野 英世 昭和48年 医
湯田 兼次 昭和49年 医	岡田 栄一 昭和50年 医		

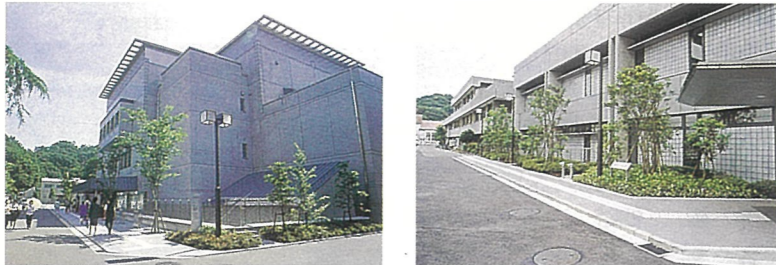
横前 丈夫 昭和31年 文	天野 晃 昭和31年 文	池田 吉徳 昭和32年 文	湯本与士朗 昭和33年 文
新井 弘 昭和34年 文	泉 茂行 昭和34年 文	田中 新吾 昭和35年 文	大谷 賢昭 昭和35年 文
榎 善教 昭和36年 文	近藤 英二 昭和36年 文	常盤 昭雄 昭和36年 文	竹田 正明 昭和37年 文
渋谷 利郎 昭和37年 文	神蔵 一彰 昭和38年 文	尾澤 詳憲 昭和39年 文	中沢 健 昭和39年 文
松木田 勲 昭和39年 文	村島 政敏 昭和40年 文	小林 隆夫 昭和40年 文	栄羽 真 昭和45年 文
山田 哲夫 昭和46年 文	野口 房雄 昭和48年 文		

山口 寛 昭和31年 理	田澤栄五郎 昭和31年 理	三宅 陸郎 昭和32年 理	金子 国夫 昭和36年 理
川戸 清爾 昭和38年 理	八戸 敏夫 昭和40年 理	矢部 明 昭和41年 理	中村 紀雄 昭和42年 理
吉村 将仁 昭和44年 理	佐野 純子 昭和46年 理	鈴木 克己 昭和51年 理	重田 諭吉 昭和51年 理
久保 浩一 昭和52年 理			

※ 年号は卒業年次
※ 出身学部等 商……商学部、医専……横浜医学専門学校、医大……横浜医科大学、医……医学部、文……文理学部文科、理……文理学部理科

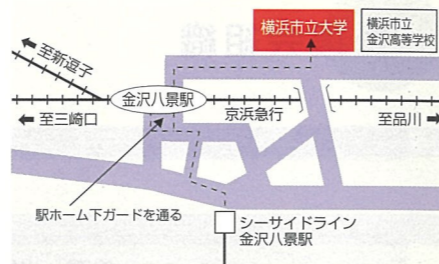
1 瀬戸キャンパス

〒236-0027 横浜市金沢区瀬戸22番2号



福利厚生施設「シーガルセンター」

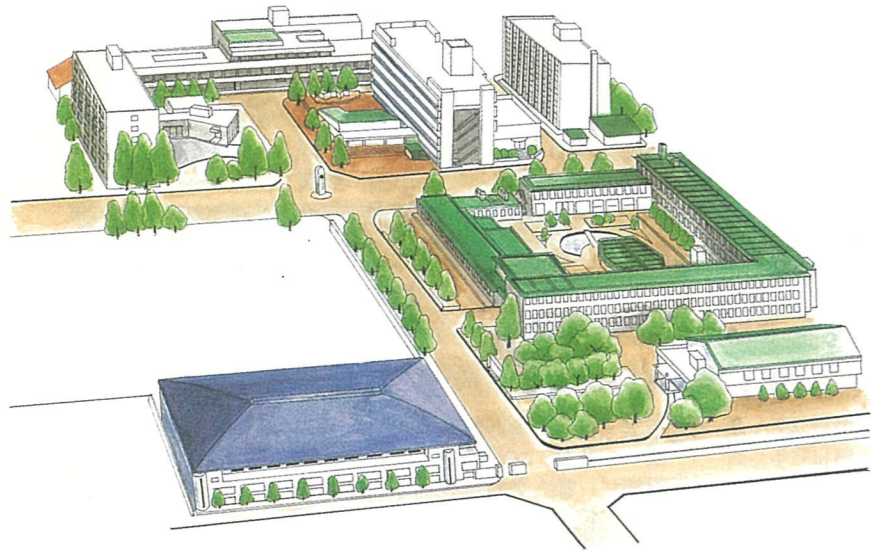
学術情報センター（仮称）



▲商学部▲国際文化学部▲理学部▲医学部進学課程▲大学院（経済学・経営学・国際文化・総合理学研究科）▲経済研究所▲図書館

〒236-0027 横浜市金沢区瀬戸 22番 2号
 [京浜急行「金沢八景駅」下車徒歩5分]
 [シーサイドライン「金沢八景駅」より徒歩6分]

- 主な駅から京浜急行「金沢八景駅」までの所要時間
- 「横浜駅」から京浜急行特急で約18分
- 「品川駅」から京浜急行特急で約42分
- 京浜急行快速特急のときは「金沢文庫駅」で乗り換え



横浜市立大学 キャンパス



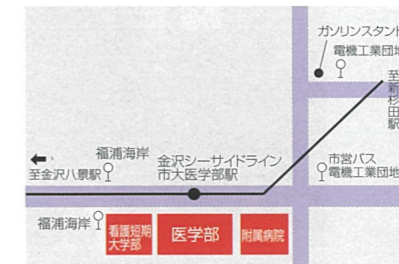
2 福浦キャンパス

医学部・附属病院
看護短期大学部

〒236-0004 横浜市金沢区福浦三丁目9番地



横浜市立大学看護短期大学部

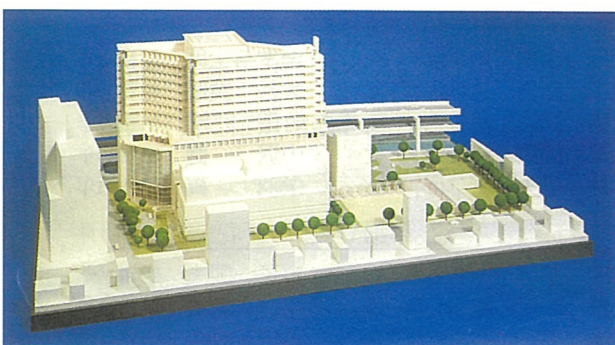


▲医学部▲大学院（医学研究科）
▲看護短期大学部

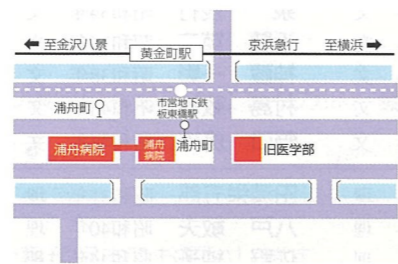
〒236-0004 横浜市金沢区福浦三丁目9番地
 [JR「新杉田駅」、京浜急行「金沢八景駅」より金沢シーサイドライン「市大医学部駅」下車徒歩1分]

3 附属浦舟病院

〒232-0024 横浜市南区浦舟三丁目46番地



現在再整備中の附属浦舟病院



▲医学部附属浦舟病院

〒232-0024 横浜市南区浦舟三丁目46番地
 [京浜急行「黄金町駅」下車徒歩10分]
 [市営地下鉄「阪東橋駅」下車徒歩4分]
 [市営バス「浦舟町」下車徒歩1分]

4 木原生物学研究所

〒244-0813 横浜市戸塚区舞岡町641-12



木原生物学研究所



▲木原生物学研究所

(財)木原記念横浜生命科学振興財団
 〒244-0813 横浜市戸塚区舞岡町641-12
 [市営地下鉄「舞岡駅」下車徒歩10分]